

宿泊税の使途を検討する ワークショップ

令和7年3月18日

目次

- 1 本日の進め方
- 2 観光振興における現状と課題

1 本日の進め方

時 間	内 容
9:30 ~ 9:40	あいさつ、事務局からの説明
9:40 ~ 9:50	自己紹介（氏名・施設のPR）・発表者の決定
9:50 ~ 10:10	それぞれの地域の分析（強み、弱み）
10:10 ~ 10:25	強みを最大限活かした目指すべき姿
10:25 ~ 10:50	必要な取組&発表準備
10:50 ~ 11:20	各グループによる発表（5分×6グループ）
11:20 ~ 11:30	関係者による講評
11:30	おわりに・アンケート記入



本日のゴール

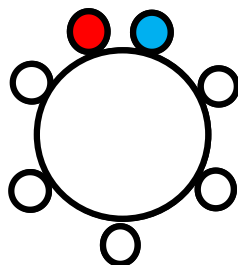
それぞれの地域の強みや弱みを分析し、
目指すべき姿や必要な取組をまとめ、共有する



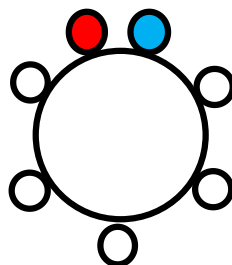
グループ編成

⇒施設の所在地域ごとに分かれたグループで意見交換していただきます。

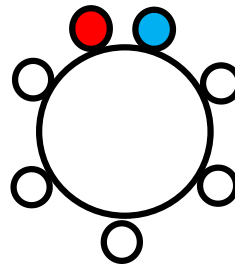
グループ1
(市川市・浦安市)



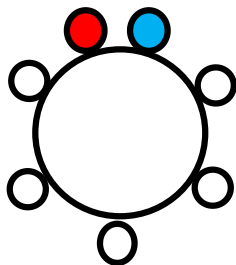
グループ2
(東葛飾・千葉市・
佐倉市・香取市)



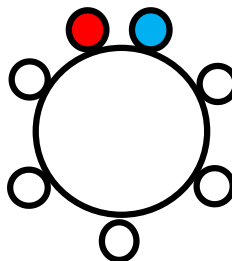
グループ3
(海匝・いすみ市・市原市)



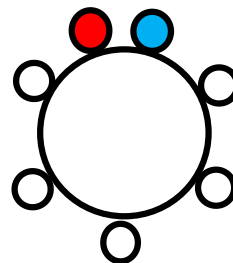
グループ4
(木更津市・富津市)



グループ5
(安房・勝浦市)



グループ6
(南房総市)



- 県職員（ファシリテーター）
- 関係者（オブザーバー）
- 参加者

ワークショップのルール

- ・ 全員に話す機会を提供するため、簡潔に意見を述べる
- ・ 人の意見は最後まで聞く
- ・ 人の意見を認めたうえで自分の意見を言う（否定をしない）
- ・ 全員で議論に参加する
- ・ 「質より量」を意識する
- ・ ふせんは、意見を述べた後、自分の名前を記載し、模造紙に貼る
- ・ 時間が限られているため、ファシリテーターの円滑な進行に協力する



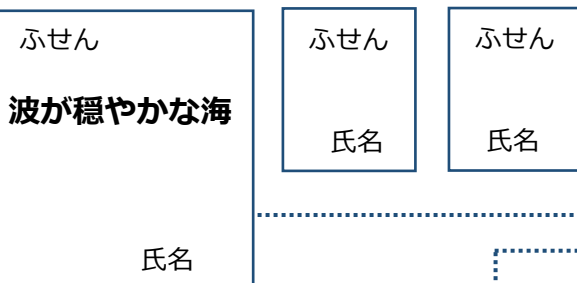
模造紙の使用イメージ

⇒できる限り②・③には「①地域の分析」に対応する意見・アイデアを記載する

【グループ名を記載】

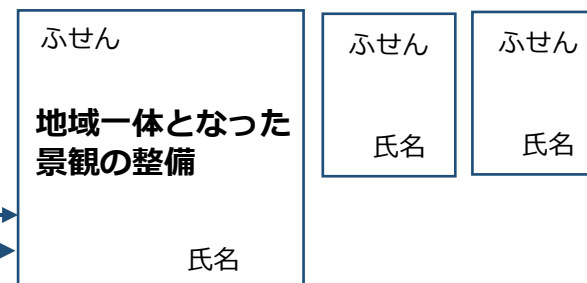
①地域の分析 <検討時間：20分>

強み

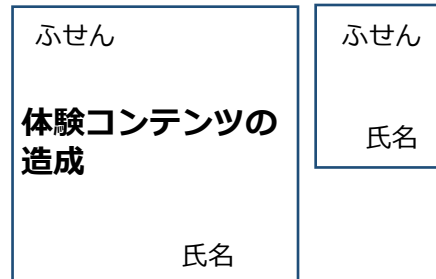
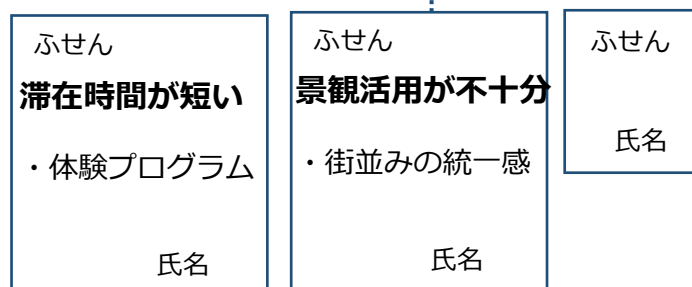


③強みを伸ばし、弱みを解決する必要な取組

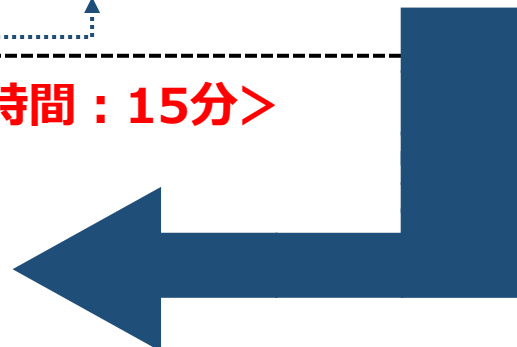
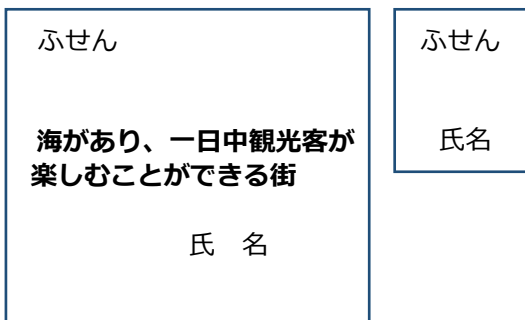
<検討時間：25分>



弱み



②強みを最大限活かした目指すべき姿 <検討時間：15分>



①地域の分析 <検討時間：20分（検討15分、まとめ5分）>

(強みの例)	(弱みの例)
●波が穏やかな海で、富士山を楽しめる	●滞在時間が短い ・体験プログラム ・飲食店
●おいしい海・山の幸を楽しむことができる	●景観の活用が不十分 ・街並みの統一感 ・海岸のゴミ、漂着物
<memo>	

②強みを最大限活かした目指すべき姿 <検討時間：15分（検討10分、まとめ5分）>

（例）

- 海を活用した滞在型リゾート
- 海があり、一日中観光客が楽しむことができる街

<memo>

③強みを伸ばし、弱みを解決するため必要な取組

＜検討時間：25分（検討20分、まとめ5分）＞

（例）

- 地域の歴史をガイドの説明で楽しんでもらう等の体験型コンテンツの造成
- 地域一体となった景観の創出、整備

＜memo＞

④まとめ

<memo>

①地域の分析

強み：

弱み：

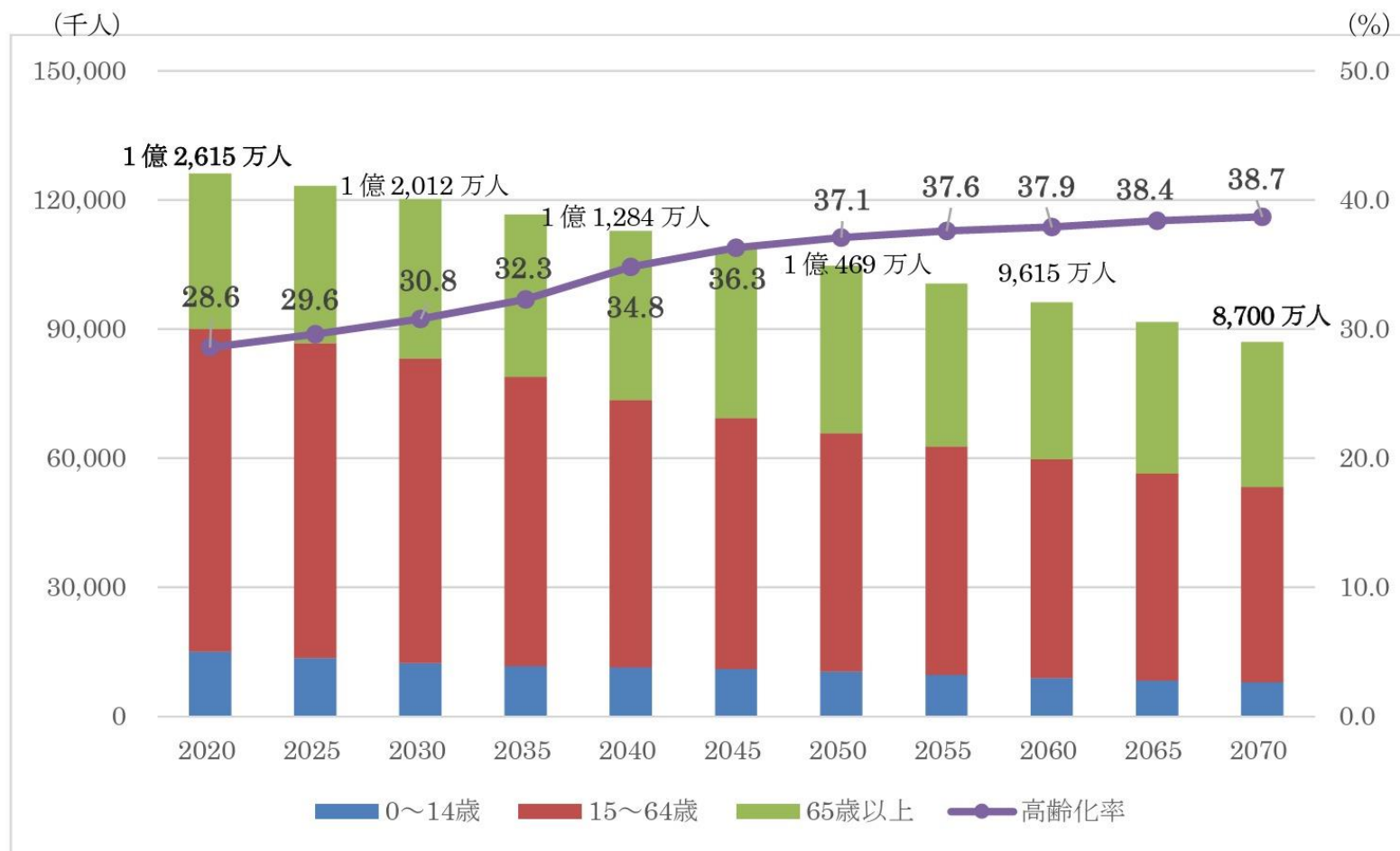
③強みを伸ばし、弱みを解決するため
必要な取組

②強みを最大限活かした目指すべき姿

2 観光振興における現状と課題<人口推計>

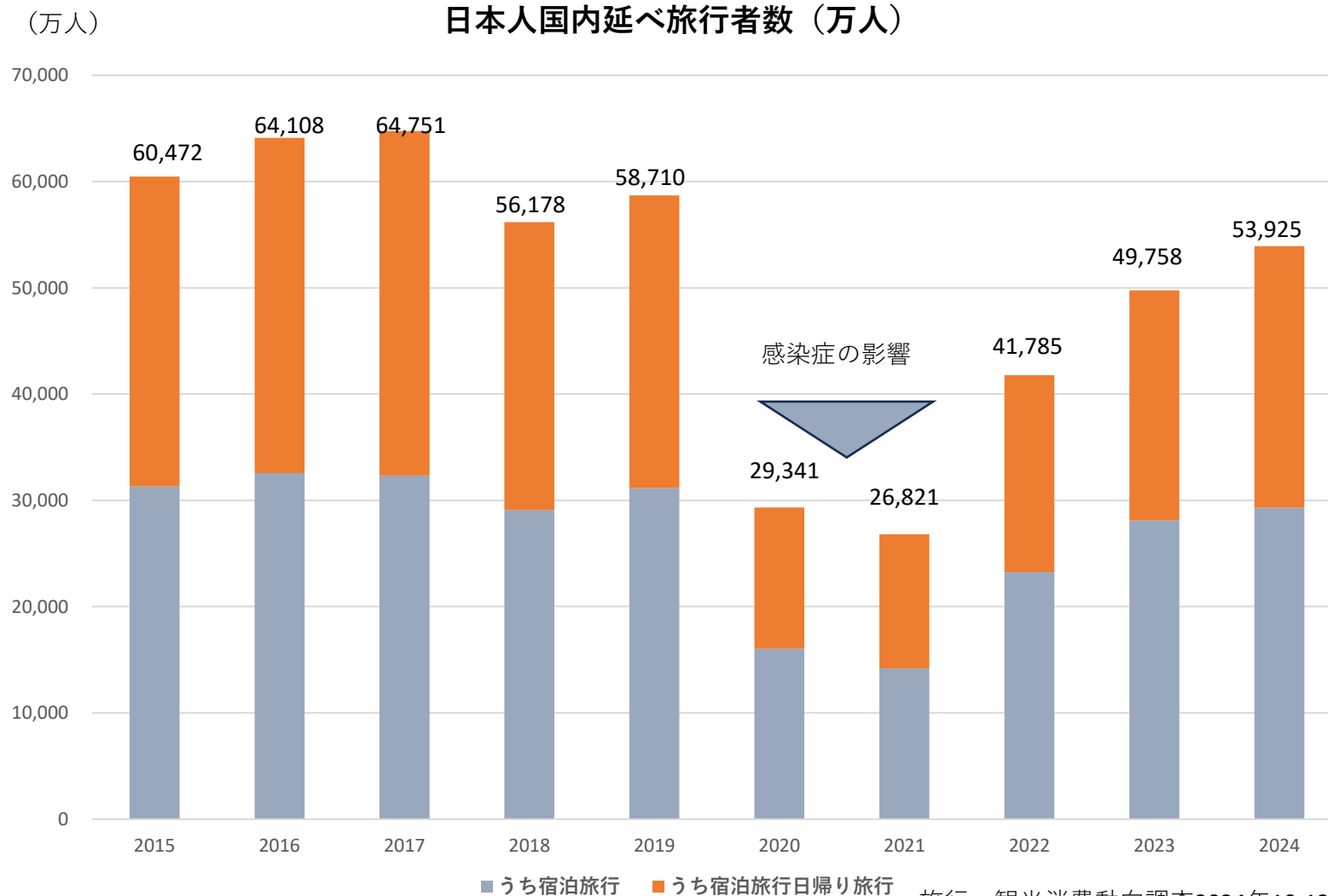
我が国の人口は、2008年をピークとして減少局面に入っており、2070年には8,700万人に減少するとされています。

我が国の人口の長期的な見通し
(国立社会保障・人口問題研究所 「日本の将来推計人口（令和5年推計）」より)



2 観光振興における現状と課題<日本人国内延べ宿泊者数>

2024年の日本人国内延べ旅行者数（速報）は5億3,925万人（2019年比8.2%減、前年比8.4%増）、うち宿泊旅行が2億9,305万人（2019年比6.0%減、前年比4.2%増）、日帰り旅行が2億4,619万人（2019年比10.6%減、前年比13.9%増）となった。

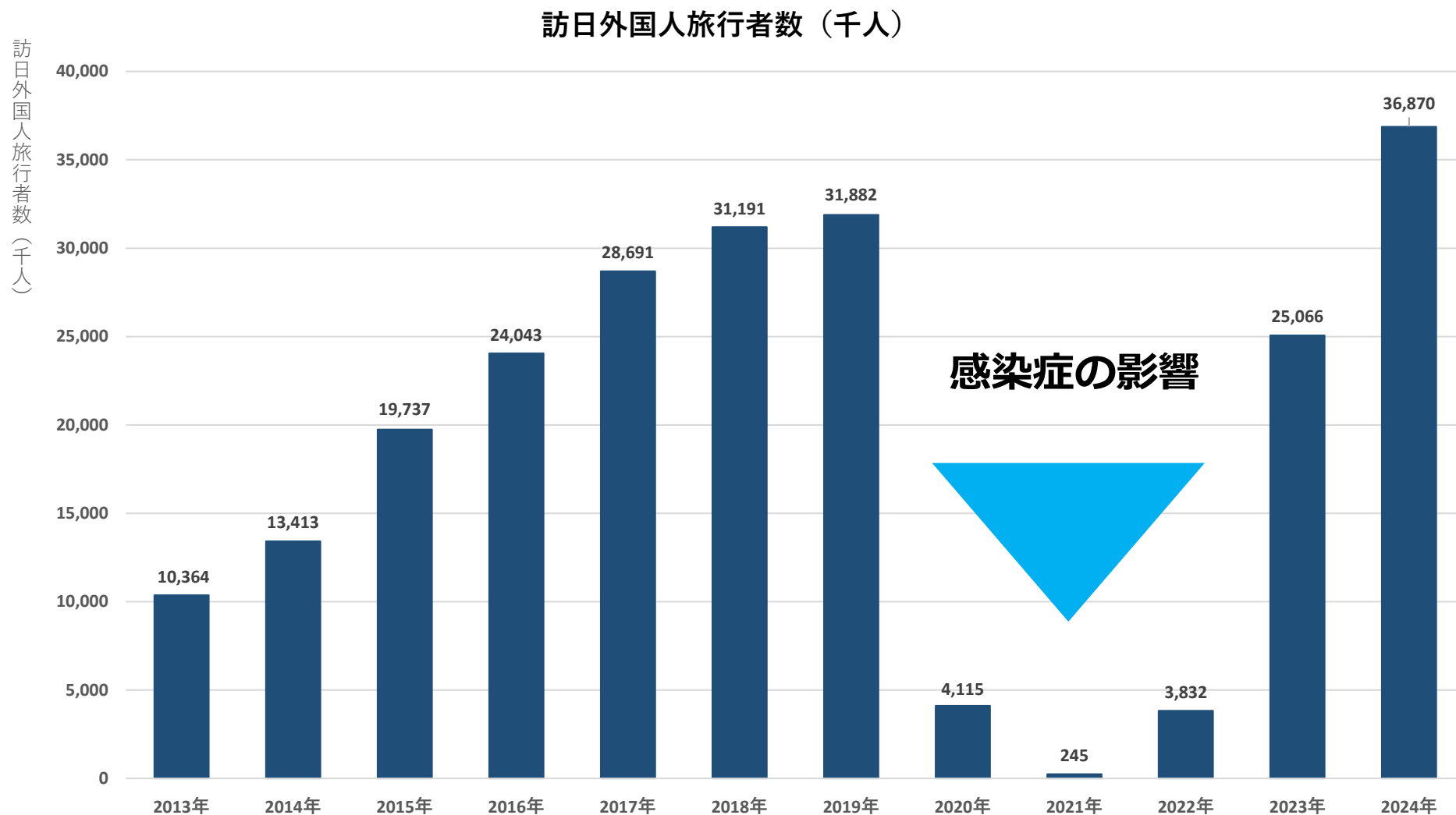


旅行・観光消費動向調査2024年10-12月期（速報）（観光庁）

https://www.mlit.go.jp/kankocho/news02_00031.htmlを加工して作成 11

2 観光振興における現状と課題 <訪日外国人旅行者数>

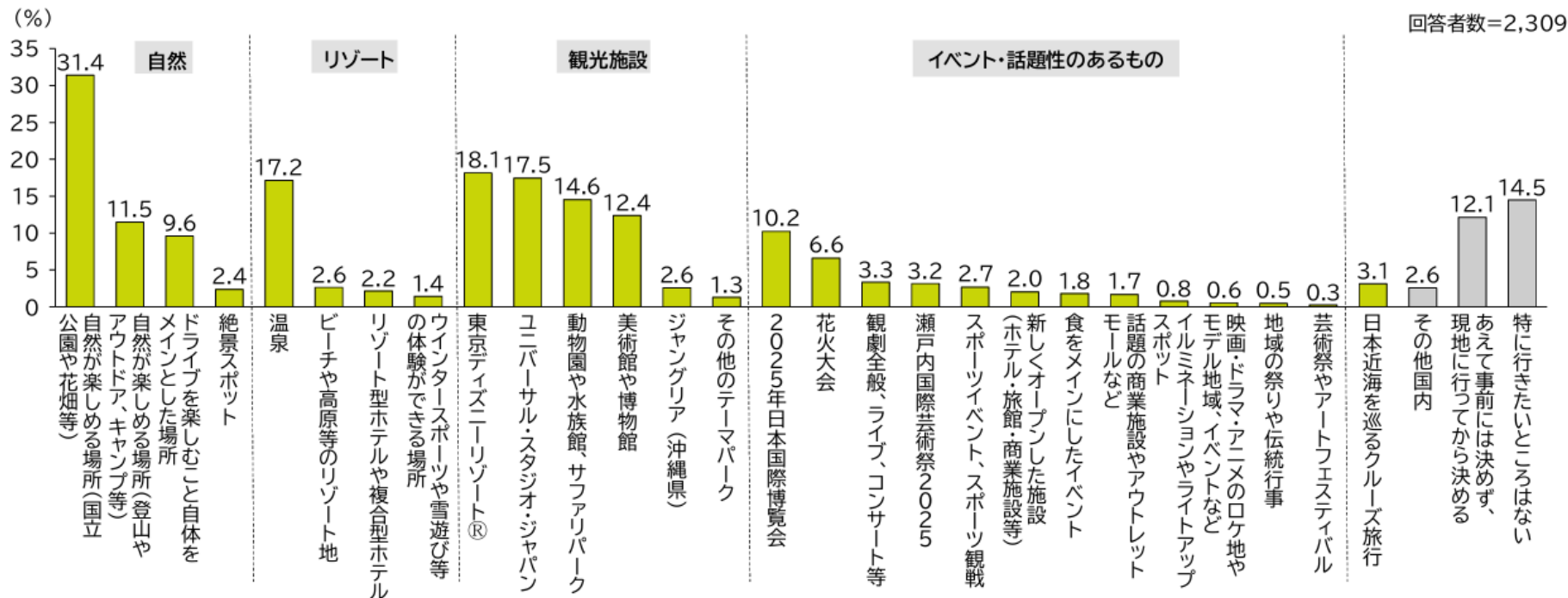
2024年の訪日外国人旅行者数は、過去最高であった2019年を上回り、記録を更新しました。



2 観光振興における現状と課題 <国内旅行者へのアンケート①>

国内旅行先の選定のきっかけに関する調査によると、旅行者の目的や選定基準が多様化しています。

(図表 11)国内旅行先選定のきっかけになりそうなもの(複数回答)

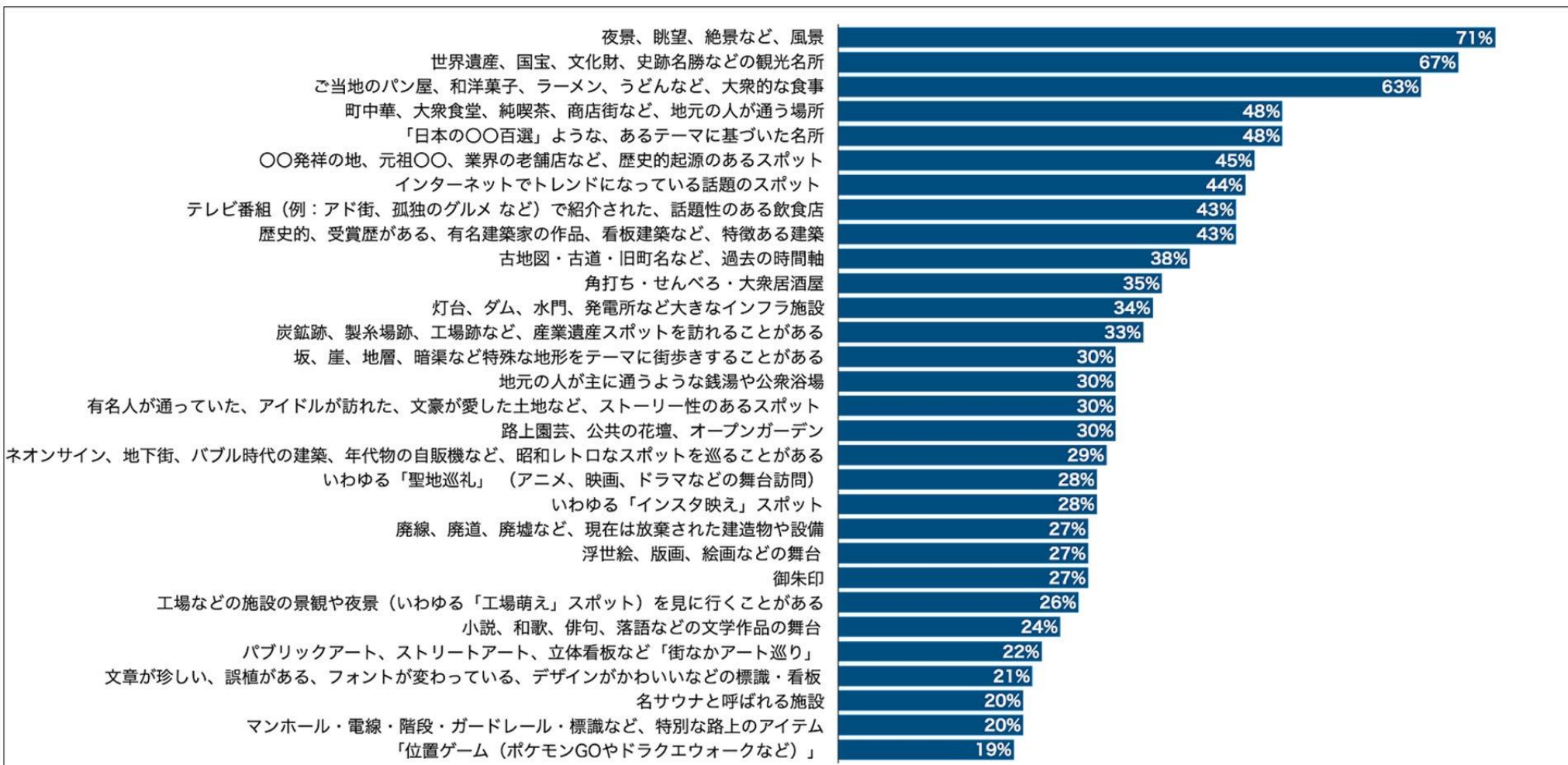


調査対象：国内旅行者3,095名（アンケート）

出典：（株）JTB「2025年（1月～12月）の旅行動向見通し」

旅行者が興味・関心を惹かれる旅のテーマに関する調査

⇒従来型の観光ではない旅のテーマについて高い興味、関心が見られます。



調査対象：

2023年6月に直近3ヶ月以内の国内旅行
経験がある20代-60代の男女1,000名

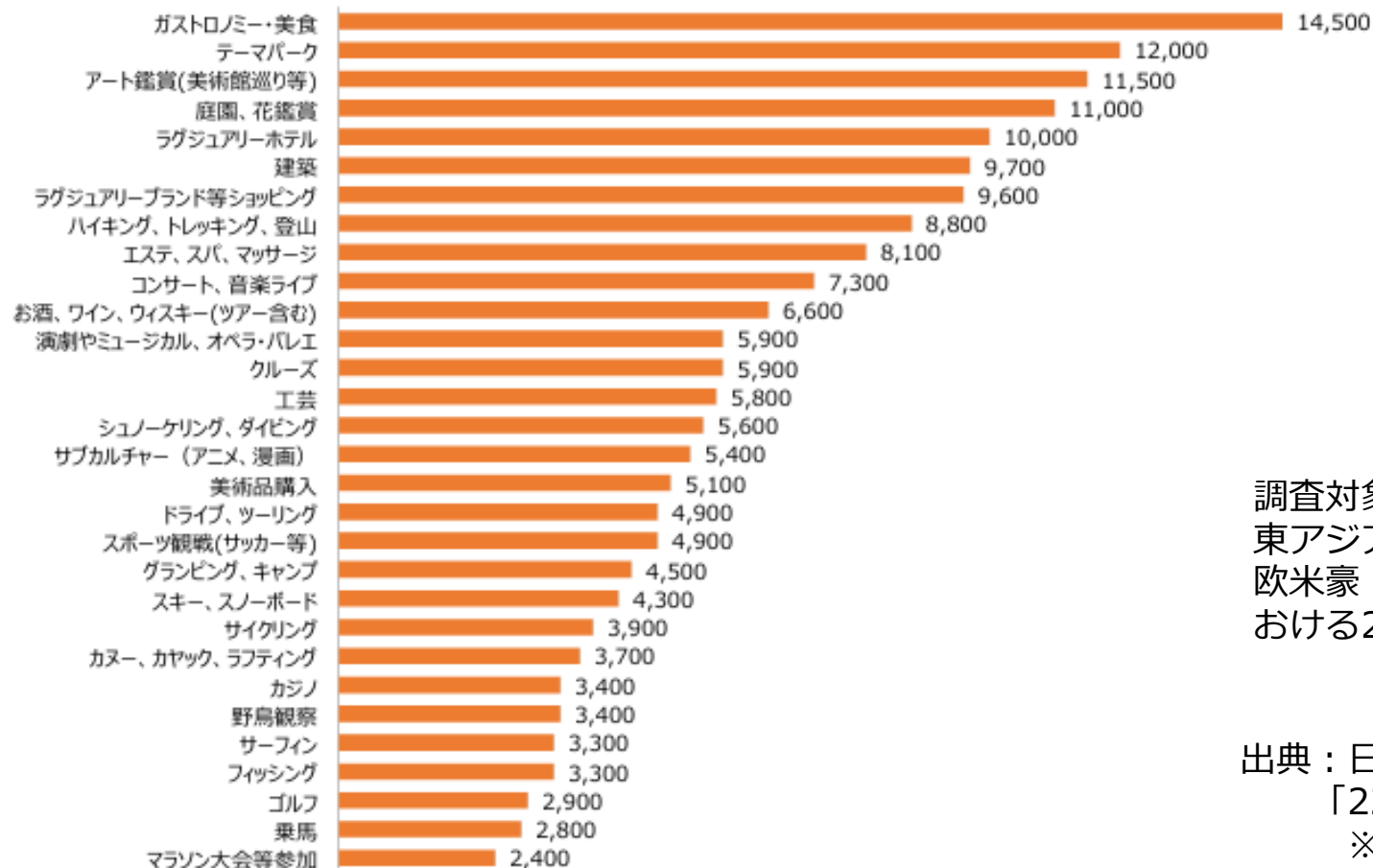
【出典：（一社）メタ観光推進機構「観光の多様化に関する調査」】

国外旅行の主な目的となるもの 目的別の市場規模(推計・22市場合計)

JNTO 日本政府観光局

- 最も多く挙げられた旅行目的は「ガストロノミー・美食」で、当該目的での国外旅行実施者の市場規模は推計1億4,500万人。以下、「テーマパーク」、「アートの鑑賞」、「庭園、花鑑賞」、「ラグジュアリーホテル」で市場規模が推計1億人以上。

国外旅行の主な目的別の市場規模(万人、推計値)



調査対象：
東アジア地域、東南アジア地域、
欧米豪・インド・中東地域に
おける20歳以上の海外旅行実施者

出典：日本政府観光局(JNTO)
「22市場基礎調査」
※2024年1月

※2017年(メキシコおよび中東地域は2015年)～2023年調査時点における国外旅行実施者ベースの推計。

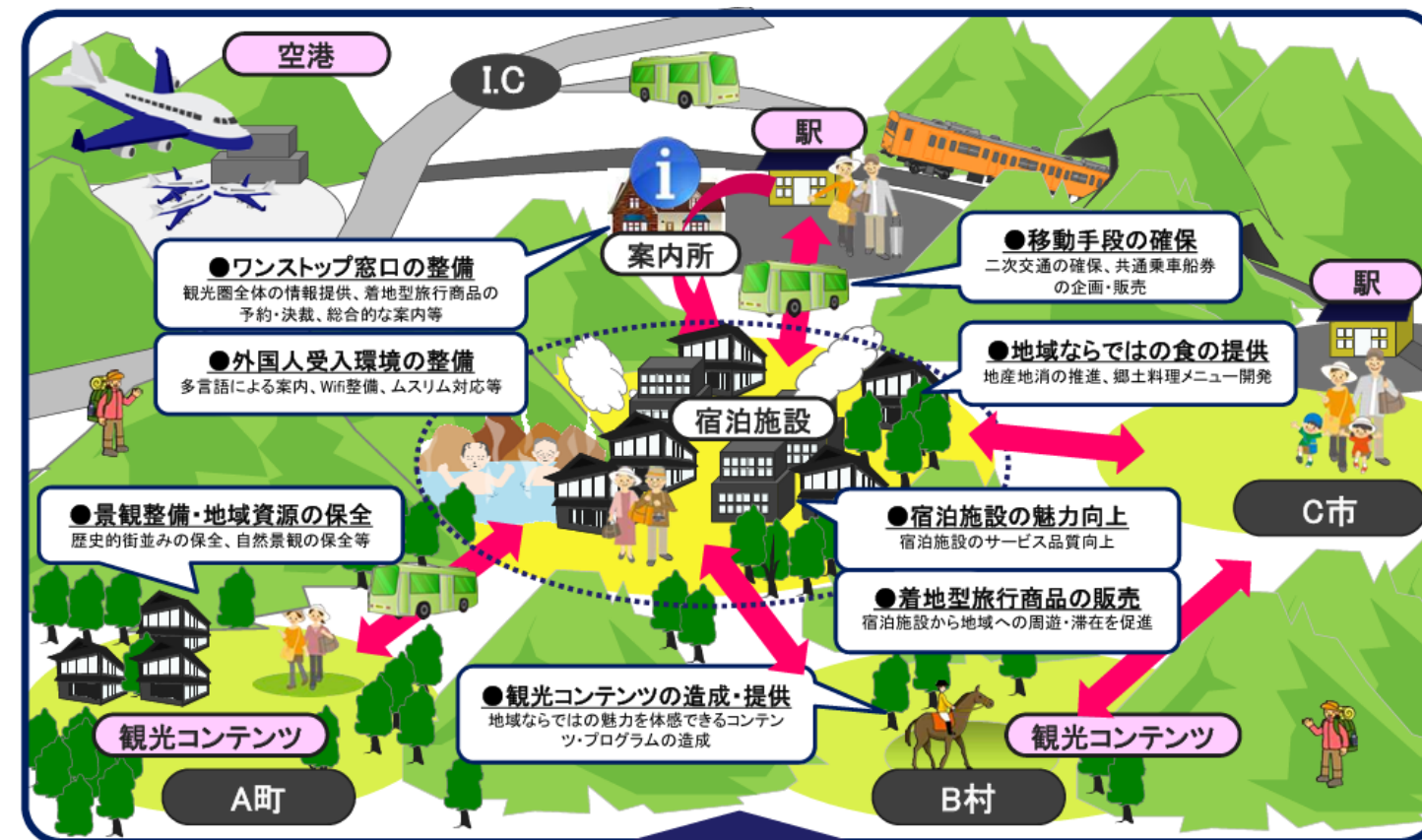
※選択肢が細分化されているスポーツやアウトドアアクティビティでは、個別の項目の選択率は相対的に低くなることに留意が必要。

※東アジア・東南アジア地域の調査対象は、2017年～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の国外旅行経験者。欧米豪・インド・中東地域の調査対象は、2017年(メキシコおよび中東地域は2015年)～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の中長距離国外旅行経験者。



2 観光振興における現状と課題 <「観光圏」について>

観光圏の整備を通じた魅力ある観光地づくり（観光庁HPより）



情報発信

日本

世界



にし阿波観光圏/
滞在プログラムの外国人受入

ブランドの確立（地域ならではの魅力の創出）

マネジメント体制の構築

・観光地域づくりプラットフォームの設置
・観光地域づくりマネージャーの確保・育成

官民・産業間・地域間の連携

行政と民間事業者との連携、観光事業者だけではない交通事業者、
商工関係者、農林漁業者等との連携、複数市町村間の連携

地域住民の理解・関与

地域住民をまきこんだ観光地域づくり

出典：観光圏の整備（観光庁）

https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/dmo/kankoken.html 16

千葉県総合計画<概要版>

- ・「県づくりの方向性」から抜粋
- ※下線は観光に関係する記載

設定し、それぞれの特性や強みを踏まえ、地域の活性化に向けた取組の方向性を示します。

東葛・湾岸ゾーン

多様な産業と都市機能の一層の充実を図り、首都圏での都市間競争における更なる優位性向上を図る

- 都市部の特徴を考慮した感染症対策、災害時対策などの推進
- 大学や中小企業の産学官連携、ものづくり産業の振興
- 幕張新都心の国際的ブランドイメージの向上
- 交通混雑の解消、首都圏の生産力を高める各種道路整備
- 6次産業化や農工商連携による農林水産物の高付加価値化
- 働く世代、子育て世代等の移住促進

内房ゾーン

道路網を介した他地域との交流機能を生かし、幅広い産業を活用した地域振興を図る

- アクアライン沿岸地の優位性を生かした雇用・居住の場としての役割の向上
- 東京湾臨海部の工業地帯の脱炭素社会の実現・事業環境向上
- インターチェンジ周辺等への多様な産業の誘致
- 都市近郊農業の発展と東京湾漁業の振興
- 多彩な観光資源を生かした観光客の呼び込み

南房総・外房ゾーン

海と緑に囲まれた自然環境や多様なライフスタイルの魅力を発信し、観光や移住を促進することで地域振興を図る

- 自然環境を生かしたワーケーションやインバウンドの促進
- 二地域居住など移住・定住の促進
- 6次産業化の支援や、グリーン・ブルーツーリズムによる農山漁村の活性化
- 新たなビジネス展開による雇用の創出
- 体験型観光・スポーツツーリズムの推進

印旛ゾーン

成田空港の更なる機能強化等の効果や国内外からの活力を生かした地域振興を図る

- 空港の機能強化、道路整備による利便性向上
- インターチェンジ周辺等への多様な産業の誘致
- 千葉ニュータウン周辺の企業立地と雇用創出、移住増加
- 農産物の高付加価値化、輸出促進
- 日本遺産等の歴史的資源の活用、外国人旅行者の誘客

香取・東総ゾーン

農林水産業の産地機能の更なる強化を図るとともに、成田空港、北関東・東北方面とのつながりを生かし、多様な産業展開を図る

- 農林水産業の経営力強化、海外輸出等による販路拡大
- インターチェンジ周辺等への多様な産業の誘致
- 自然や歴史・文化を生かした観光の推進、外国人旅行者プロモーション推進による成田空港からの誘客促進
- 多様な産業展開や豊かな自然、多彩な食などの魅力を発信し、移住・定住を促進
- 道路整備進展、空港の機能強化による農林水産業や観光業の更なる振興
- 洋上風力発電事業の進展等による新たな雇用創出

九十九里ゾーン

圏央道整備効果を様々な産業活動に取り込むとともに、各種産業の連携による地域振興を図る

- 幹線道路整備進展、空港機能強化による各種産業活動の促進
- 企業立地の促進、インターチェンジ周辺等への多様な産業の誘致
- サーフィンの適地を求めて集まる人々の感性を生かした、まちづくりや産業振興
- 農林水産業の更なる発展に向けた生産体制の強化
- 豊かな自然と、都心への良好なアクセスを生かした、移住・定住の促進

県では、これまで取り組むべき観光振興施策の**取組の方向性**を以下のとおり整理してきました。

【千葉県が取り組むべき観光振興施策】

1 観光人材の確保・育成・定着

- ・観光地経営人材の支援等
- ・観光産業人材の支援等
- ・実務人材の確保等

2 持続可能な観光地づくり

- ・観光客のニーズの把握と地域の多様な資源の磨き上げ
- ・観光資源の有効活用等
- ・二次交通等
- ・宿泊・滞在を延ばす取組

取組の方向性

3 インバウンドの推進

- ・効果的かつ効率的なプロモーションの展開
- ・受入環境の充実
- ・県内周遊の促進及び旅行消費額の増加

4 デジタル技術の活用

- ・観光客のニーズに合った情報提供等
- ・経営効率化のための活用
- ・ビッグデータ等の活用による観光地経営の効率化等
- ・デジタル人材の確保・育成